

講義名	対1) 計量経済分析			授業形態	
担当教員	森澤 龍也	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

主題と概要

計量経済学は経済データの統計分析を通じて、経済理論を検証し、経済の実態を捉えようとする学問である。この講義では最小二乗法 (OLS) という推定方法に絞って、経済の実証分析を行うための基礎を学ぶ。

到達目標

経済データを用いた計量分析の基礎的な理論を習得し、これを応用することで経済の実証分析ができるようになる。

提出課題

講義中課題 (演習問題など)・レポート課題を行う予定である。また、一部講義回にて反転授業を実施する予定である。課題・反転授業は教科書を使用するので、準備しておいてもらいたい。また、課題ではレスポンス・Word・電卓が必要となる。Wordでは数式エディタを使用するので、必要な情報機器を準備するとともに、事前に使い方を調べておいてもらいたい。なお、手書き原稿などの撮影物の提出は非点対象外である。

課題 (レポートや小テスト等) に対するフィードバックの方法

課題採点後の講義時に講評を述べるとともに解説を行う。

評価の基準

講義中課題・レポート課題: 60%
定期試験または最終確認演習: 40%
現時点では、対面式講義を前提に予定を組んでいるが、今後の状況次第では定期試験の代わりに最終確認演習を実施することも考えている。この点については、状況判断の見通しがつき次第、Ryuka Portalの掲示にて連絡する。

履修にあたっての注意・助言他

講義には電卓 (計算およびメモリー機能を備えているもの) を持参する必要がある (携帯電話・スマートフォンによる代用は不可)。電卓をもっていない受講生は講義が始まる前に準備されたい。数学や統計学の知識が必須となるため、経済数学・基礎統計学を修得したうえで受講することが望ましい。また、教養変更が可能な場合はPC実習を予定しているため、情報処理入門・経済情報処理を修得したうえで受講することが望ましい。逆に言えば、これらの知識がないまま受講した場合、この講義の理解が困難となる。講義中での私語は厳禁である。

教科書	『入門 計量経済学』	山本拓・竹内明香	新世社	2500円+税	9784883841981
-----	------------	----------	-----	---------	---------------

参考図書

参考文献は適時、紹介する。

その他

必要に応じて、担当者作成の講義レジュメおよび参考資料を配布する。

授業計画

- 1 計量経済学とはどのような学問か
- 2 和記法の基本的機能と応用
- 3 統計分析の基礎
- 4 統計分析の基礎
- 5 統計分析の基礎
- 6 統計分析の基礎
- 7 最小二乗法 (OLS)
- 8 最小二乗法 (OLS)
- 9 最小二乗法 (OLS)
- 10 最小二乗法 (OLS)
- 11 単回帰分析
- 12 重回帰分析
- 13 多重回帰分析の基礎
- 14 多重回帰分析の基礎
- 15 総復習課題の演習

授業形態 (アクティブ・ラーニング)

ア: PBL (課題解決型学習)	<input type="radio"/>	イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/>	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	<input type="radio"/>	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他 (A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	<input type="radio"/>	

準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・ 総予習 15時間: 開講までに指定された教科書を通読し、全体の内容を把握しておく。また、経済数学・基礎統計学の範囲を復習しておく。
- ・ 予習 1.5時間/回×15回: 自らの教科書指定範囲を熟読し、次回講義のための要点をまとめておく。数式展開がある箇所は自分で一度解くことを試みる。
- ・ 復習 1.5時間/回×15回: 教科書の再読、講義ノートの整理に取り組み、自らの内容に関する理解を深める。数式展開がある箇所は自分でもう一度解けるか確かめておく。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

経済情報学科経済情報コース:
DP (1) - との関連性: 目標を達成することで共通DPに貢献できる。
DP (2) - との関連性: 目標を達成することで共通DPの「経済情報分析力を活かして、経済社会のさまざまな問題に対して情報技術を用いた解決策を提案する」力の育成に貢献できる。
経済情報学科情報システムコース:
DP (1) - との関連性: 目標を達成することで共通DPに貢献できる。
DP (3) - との関連性: 情報システムの仕組みを直接の考察の対象とはしていないが「情報処理能力、問題解決のための応用力を身につける」ことに貢献できる。
経済学部現代経済コース:
DP (1) - との関連性: 目標を達成することで共通DPの「これまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察」することに貢献できる。
DP (2) - との関連性: 目標 (1)・(3) を達成することで共通DPの「世の中の動きを理解して、経済問題の諸問題に解決策を提案する」ことに貢献できる。
経済学部地域まっすぐりコース:
DP (1) - との関連性: 目標を達成することで共通DPの「これまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察」することに貢献できる。
DP (3) - との関連性: 特に地域社会の諸問題に考察対象を特定していない。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

適宜、質問を受け付けながら演習および実習を行う。レスポンスを使用する予定である。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

この講義は計算や数式展開が他の文科系科目よりも多い積み重ね型の科目であり、講義の時間外にも自分で解いて復習することが内容理解のために大切である。受講に当たり、教科書を手元に準備されたい。対面式講義として開講する予定である。(2022年2月15日現在)
ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により上記の開講方式については変更の可能性がある。その際はRyuka Portalの掲示にて連絡するので、講義連絡を常に確認してもらいたい。また、開講方式変更の際のシラバスについては修正される可能性がある。